

サブテーマ名：マウス長鎖cDNAの取得・構造解析とそのための効率化技術の開発 小テーマ名：個体発生諸段階における長鎖cDNAライブラリー																
サブテーマリーダー（所属、役職、氏名）千葉県産業振興センター、主任研究員、古閑 比佐志 小テーマリーダー（所属、役職、氏名）（財）産業創造研究所 生物工学研究部長 川上 泰 研究従事者（所属、役職、氏名）（財）産業創造研究所、主任研究員、本條秀子																
研究の概要、新規性及び目標 ①研究の概要 かずさDNA研究所においてマウス成体の脳由来のmRNAより作成された長鎖cDNAライブラリーが作成され、そこからヒトKIAA cDNAに対応するマウスcDNAを単離し始めている。しかしながら、成体の脳で発現の低いKIAA遺伝子を、このライブラリーを用いて単離するには困難が予想された。そこで種々の組織由来のmRNAを用い、長鎖cDNAライブラリーを作製することを目指している。 ②研究の独自性・新規性 種々の臓器由来の長鎖cDNAライブラリーをGATEWAYシステムをくみこみ作製することはクローン取得後、cDNAをシステムティックに種々の発現ベクター等に容易に移せるという利点があることが独自の点である。 ③研究の目標（各フェーズ毎に数値目標等をあげ、具体的に） （フェーズI）各年度、1種類の長鎖cDNAライブラリーを作製する。																
研究の進め方及び進捗状況（目標と対比して） 2種類のライブラリーを作製した。しかしながらいずれのライブラリーも本テーマにおいてターゲットとにしている4kb以上の長鎖cDNAの割合が少なかった。このことより、ライブラリー作製の条件を検討する必要があると考えられた。																
主な成果 具体的な成果内容： 特許件数：0                      論文数：0              口頭発表件数：0																
研究成果に関する評価 1 国内外における水準との対比 かずさDNA研究所においても地域分の研究としてマウス長鎖cDNAライブラリーが作製されている。それ以外では国内外では長鎖cDNAにターゲットを絞ったライブラリー作りは行われていない。 2 実用化に向けた波及効果 成体マウスの脳由来のライブラリーのみでは困難であった有用な長鎖cDNAが得られると期待される。																
今後の課題と研究開発方針について かずさDNA研究所においても並行して各種マウス長鎖cDNAライブラリーの作製が行われ、マウスKIAA遺伝子を単離するのに十分なライブラリーの種類が揃った為、この小テーマは平成14年度で終了した。																
	J S T負担分（千円）							地域負担分（千円）							合 計	
	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	小 計	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	小 計		
人件費								1,059	2,533						3,592	3,592
設備費																
その他研究費 （消耗品費、 材料費等）								1,606	1,005						2,611	2,611
旅費																
その他																
小 計								2,665	3,538						6,203	6,203
代表的な設備名と仕様 [既存（事業開始前）の設備含む] J S T負担による設備：なし 地域負担による設備： DNAシーケンサー装置など																

※ 複数の研究課題に共通した経費については按分する。